

## ホスピスケア

ホスピスに移れば、今どのような状況にあっても、必ず末期に尊厳と安らぎをもたらされます。病院でも特別介護施設でも自宅でも、ホスピスは特別な医療を提供する手配をとってくれ、死期が近づいている人に身体、精神、感情、魂に安らぎをもたらされます。

ホスピスは死期が近い人を介護するという哲学と実践の場で、死はごく当たり前のもので、避けては通れない人生の一部だという信念に基づいています。長い闘病生活を過ごしてきたある時点で、死を迎えるまでの数カ月、数週間または数日間の生活の質を高めることに焦点を当てる必要があります。

アメリカには2200を超えるホスピス組織があります。そのほとんどが在宅介護サービスや休息ケアを提供しています。ホスピス組織には普通、医師、医療管理者、看護婦、在宅看護助手、ソーシャルワーカー、カウンセラー、栄養士、言語療法士、機能訓練士、聖職者、ボランティアがいて、死期の近い人や家族のニーズに応えるため、全職員が一丸となって働いています。

スタッフは通常24時間体制で、相談に答えたり、緊急時には訪問もしてくれず。

ホスピスのなかには、福祉施設を運営しているところがあり、患者が在宅介護を選択できなくても、短期または長期の入所を受けることができます。ほかに、介護者のために休息ケアを手配して、一時的に患者をナーシングホームに移してくれるホスピスがあります。ホスピスは、死への最終段階に症状や痛みを抑えるためにさらにさまざまな医療が必要になれば、病院に移すことを病院と契約しています。

ホスピスが助けてくれれば、死期の近い人は病院の慌ただしさや施設の中にいるという感じから逃れ、家に戻るか、ナーシングホーム、病院、独立しているホスピスの中でも家庭にいるような場所に移してもらえ、安らかで穏やかに死を迎えられることができます。

ホスピスの看護婦や医師は、病気を治そうとしたりリハビリをさせたりしようとはしません。かといって、死への自然な流れを速めることもありません。一般に、痛み、吐き気、めまい、便秘を緩和する目的の支持的な緩和ケアに焦点を当てています。

身体的介護と同じように、ホスピススタッフが死期の近い高齢者と家族に提供

する社会的、心理的、精神的な支援は大切なものです。

看護婦、助手、社会福祉士は以下の訓練を受けます。

- ・日々の生活を通じて家族を導く。
- ・家族や要介護者と、死への過程、深い悲しみなどの感情的な問題、現実的な問題を話し合う。
- ・もめ事を解決するのを助ける。
- ・経済的な情報、牧師の支援、死別カウンセリングを提供する。
- ・場合により葬儀の計画の援助をする。

ホスピスサービスのほとんど（付添人から看護婦、医療機器まで）は、認定を受けた業者である限り、メディケアの適用範囲とされます<sup>23</sup>。

---

### ホスピスのボランティア

特別な訓練を受けた専門職のチームに加え、ホスピスプログラムのサービスに資格を持ったボランティアが参画することはよくあります。地域組織のなかには、ホスピスのボランティア養成のための特別なトレーニングコースを提供しているところがあります。ホスピスのボランティアは食事、歩行の介助、入浴、着替えなど身辺介助のニーズのある要介護者を援助したり、相手の気持ちを汲みかつ積極的な聞き手になるための訓練を受けます。

ボランティアは、死別問題で特別な訓練を受けることがあります。訓練を受けたら、葬儀に参列したり、遺族にお見舞いの電話を入れるのを手伝ったりすることによって、死後の期間を通じて家族を支援することもあります。

ホスピスのボランティアは、死期の近い高齢者には心に安らぎを与え、親密な交わりをもち、家族には息抜きの期間や支援を提供するための準備をします<sup>24</sup>。

### 末期の高齢者のためのボランティア支援

死期の近い高齢者は次第に衰弱しており、主介護者は要介護者の死がさし迫っていることに対する感情から身体機能が低下していることもあるため、介護支援

<sup>23</sup> *How To Care for Aging Parents*, Virginia Morris, Workman Publishing Company, Inc., New York, 1996, pp.351 ~ 352 より許可を得て改編。

<sup>24</sup> *A Model Curriculum and Teaching Guide for The Instructor of the Home-maker-Home Health Aide*, Foundation for Hospice and Homecare, 1990, pp.197 ~ 198 より許可を得て改編。

ボランティアは両者を援助することになります。

### 深く同情する

人の気持ちを察して親身になって話しを聞いたり、やさしく手に触れたりすることが、ボランティアが支援できるもっとも大切なことだと思われま。これは要介護者と主介護者が自分たちの人生について語り合ったり、過去の思い出を語りあったり、残された時間がわずかしかなことを共に悲しんでいるその場に立ち会ったときに特に大切なことです。

### 家族に説明する

ボランティアと要介護者との関係しだいで、要介護者が死に対してどう感じているのかボランティアが家族に上手く説明することができます。ボランティアは、これまでの家族の力関係に個人的にそれほど関わっていないので、高齢者は家族よりもボランティアに感情を表現しやすいことがあります。

### 健康状態の変化を観察する

ボランティアは死期の近い高齢者の心身に変化がないかどうかを観察し、家族が新たに必要とする介護を決めるのを手伝うことができます。心身に変化がみられないうちは、ボランティアは常に、家族の望みを尊重し、医師をはじめとする医療提供者が作成した介護の指示書に従います<sup>25, 26, 27</sup>。

### 尊厳を保ち、安らぎを与える

状況は変化しつつありますが、慢性的な病気をもつ高齢者は今なお、家ではなく病院やナーシングホームなど、施設の中で亡くなる人が多いようです。医療施設で死を迎えるまでの数日間、死にゆく人は最新式の医療機器、最良の医者や看護婦、最前線の治療など命を守り維持するために必要なあらゆるものに取り囲まれることがあります。しかし、こうしたものは尊厳を保つにも、安らぎを与え

<sup>25</sup> *A Handbook for the Home Care Aide*, National HomeCaring Council, foundation for Hospice and Homecare, 1992, pp.37 ~ 39 より許可を得て改編。

<sup>26</sup> *The Caregiver's Manual, A Guide to Helping the Elderly and Infirm*, Gene B. Williams and Patie Kkay, A citadel Press Book, Carol Publishing Group, 1995, pp.327 ~ 330 より許可を得て改編。

<sup>27</sup> *A Model Curriculum and Teaching Guide for the Instruction of the Home-maker-Home Health Aide*, National HomeCaring Council, Foundation for Hospice and Homecare, 1990, pp.195 ~ 196 より許可を得て改編。

るにも充分ではありません。

尊厳と安らぎは、死期の近い人が持ち続けたいと考えている生活の質でもっとも重要なのであると考えられます。

ホスピス、ボランティア、主介護者の重要な目的のひとつは、打ち解けた雰囲気、気持ちの良い心なごむ環境をつくり、高齢者ができるだけ安らぎを感じられるようにすることです。

ホスピスのボランティアの役割についてさらに知りたい場合は、第7章「対人関係とその喪失への対処」を参照してください。

## ボランティアの権利と責任

ボランティアが介護支援するということは、介護する側のためにもされる側のためにもなるものです。ニーズを抱えた高齢者とその介護者は、計り知れないほど貴重な支えや助けが得られ、介護支援ボランティアは、他人を助ける機会をもらい、新しい技能、達成感、新しい友情を得て、自分は貢献しているという認識を持ちます。

ボランティアは、時間と才能とエネルギーを注いで自らの任務を遂行します。仕事は困難できついものです。やる気を保ち「燃え尽き」ないように、ボランティアは自らの「権利」を知り、その権利を守るために基本的な主張をする技術にも通じている必要があります。何を期待しているかをはっきりさせておけば、きちんと伝わらずにがっかりすることもないでしょうし、前向きな気持ちのままでありながら、自らの経験に対する満足感が損なわれることもありません。

### 介護支援ボランティアの権利

介護支援ボランティアが、担当予定の要介護高齢者や介護者、家族について知る。

オリエンテーションを受けたり、訓練を継続したりして、ボランティアの任務に十分備える。

ボランティアの任務に就くにあたって、自らに求められること知る。

要介護高齢者や介護者、家族、派遣会社から尊敬される。

つつがなく生活する。

ボランティアの仕事を活かしたものにし、他人を助ける能力を向上させるためのフィードバックを受ける。

要介護者や介護者、その家族に、自宅の住所や電話番号を明かしたくない場合、そのプライバシーを守る（派遣会社が24時間体制で、介護支援ボランティアとの間で伝言をやり取りするシステムを設けています）。

派遣会社のボランティアコーディネーターやプログラムスタッフから、十分な教育、指示、支援、評価を定期的に得る。

*Volunteer Management Guide*, National Federation of Interfaith Volunteer Caregivers, Inc., 1997, attachment C12, p.1(materials shared by VICAP, Phoenix, AZ, Triniteam, Eau Claire, WI, Volunteer Chore Service, Seattle, WA,より許可を得て改編)より許可を得て改編。

## 危機管理

任務にはいろいろあるので、年齢を問わずボランティアになることができます。地域団体では、他人を援助するために進んで時間を提供してくれる人達を喜んで受け入れています。

ボランティアは、介護者となる友人や親戚がいない高齢者の介護に割り当てられることもありますし、介護者の日々の仕事を助けたり、介護者に休憩が必要な場合は、休息ケアや夜間の介護を行ったりすることもあります。短期支援でも長期支援でも、依頼人のニーズを満たすということに関して、ボランティアに対する地域団体の依存度は高まっています<sup>28</sup>。

ボランティアの技能が要介護高齢者と介護者のニーズにぴったり合っていれば、ボランティアと要介護高齢者と介護者は、お互いの接し方がよくなるようです。

派遣団体のプログラムスタッフと仲介者は、ボランティアの時間、生まれもった才能、能力等を最大限に利用しなければなりません。また、介護者や要介護高齢者について十分知っておき、それぞれが必要としている支援を確実に受けられるようにしなければなりません。介護者や要介護者、それぞれの状況やニーズにまつわる情報は、ボランティアも仕事を受ける約束をする前に知っておかなければなりません<sup>29</sup>。

サービスを行うことを承諾したボランティアは、求められる職務と、派遣会社が期待する振る舞いや態度について、明確な指示を受けなければなりません。また、与えられた任務をきちんと遂行しなければ、自分も派遣会社も法的に危機な立場に置かれるということを知っておかなければなりません。

地域に根ざした非営利団体は、ボランティアに対して、仕事で成功するために求められる十分な訓練を行い、知識を与え、監督し、支援する義務があります。また、ボランティアの側には、知識や技能が十分ではないと感じたり、任務を遂行できないと感じた場合には、その仕事を引き受けないという責任があります。

ボランティアは依頼されていることやそれを行う方法、それに伴う危険について、正確に理解しておかなければなりません。また、いつ質問をすればいいのか、どんな場合に訓練や準備、支援を増やしてもらうよう要請すればいいかを知って

<sup>28</sup> *Caregiver's Handbook: A Complete Guide to Home Health Care*, Visiting Nurse Associations of America, DK Publishing, Inc., 1998, p.29 より許可を得て改編。

<sup>29</sup> *Volunteer Management Guide*, National Federation of Interfaith Volunteer Caregivers, Inc., 1997, Attachment D10 より許可を得て改編。

おかなければなりません。「難しすぎて理解できない」場合はそのことを認め、自分の監督者に伝えることができるようであればなりません。何も知らないということは言い訳にはならず、そのうえ熱中しすぎたり熱心になりすぎたりすれば、思いがけない結果をもたらします。

自分の限界を超えようとするボランティアは、自分や他のボランティア、組織、支援しようとしている人々に問題を引き起こします。プロフェッショナルな態度と良識と正しい判断を働かせることによって、ボランティアの危機は減少します。

このような理由で、求めに応じられる最高のボランティアを選び、可能な限り最高の態度をとるようボランティアに覚悟と準備を与え、必要な場合はいつでも支援を増やすことができることを確認させることはそれぞれの組織の義務なのです<sup>30</sup>。

#### 自己主張に関する介護ボランティアへの助言

要介護者や主介護者に、正直に対処して（自分を主張して）良いのです。

自分を主張する人は率直で正直です。自分を主張する人は、自分の権利や気持ちを大切にすると同様に、他人の権利や気持ちを心から気遣います。

質問をしても良いですし、頼まれたことについてもう少し考える時間が欲しい、と言って良いのです。何をしたいか、したくないかを言って良いのです。

頼まれたことを断っても良いのです。あなたが満たせない追加のニーズについて、あなたの組織の担当者、または別のボランティア派遣機関に依頼すると申し出てください。

「ノー」と言っても構いません。1度目にそれを聞いてもらえなければ繰り返して良いのです。「ノー」と言うのに、言い訳や理由付けをする必要はありません。

「いいえ、それはできません」と言いたい時に「はい、やります」と言ってはいけません。自分の気持ちに配慮し正直でなければ、自分の割り当てられた任務に欲求不満が生じます。任務が喜びではなく、雑用になってしまいます。

*Volunteer Management Guide*, National Federation of Interfaith Volunteer Caregivers, Inc., 1997, Attachment C12, p.2 より許可を得て改編。

#### ボランティアの任務不履行に対する法律上の問題

これは、ボランティアが無償であっても「それなりに行動し任務を遂行する義務」があるとする特殊な判断を下している部分です。この法律の下では、ボランティアは任務遂行の契約と特別な関係を持ち、派遣会社はボランティアとの契約

<sup>30</sup> *Volunteer and the Law, A Guidebook* by Robert W. McMenamin, J.D., edited by JoAnne L. Lippert, Jomac Publishing, Inc., Beaverton, OH, pp.39, 41 で共有されている資料より許可を得て改編)より許可を得て改編。

が法的に有効であることを前提にします。

ボランティアが承諾した業務を遂行しない場合には、法的責任が生じます。その法的責任の対象には次のものが挙げられます。

- (1) ボランティアがサービスを行うことを承諾した人。
- (2) ボランティアがサービスを行うと約束した派遣会社。
- (3) ボランティアの任務不履行により何らかの影響を被った第三者。

義務不履行や「行為の怠慢」があると深刻な事態が生じます。車で弁当の宅配を引き受けたボランティアがさぼると、弁当の宅配を待っている人はいつまでもおなかをすかしたまま待っていることになります。診療所まで搬送するはずのボランティアが予定の時間に現れないと、診察時間に間に合わなくなります。

ボランティアが任務を怠ると、地域団体がサービス提供者や重要な地域資源としての信用を落とすことになります。それだけでなく、ほかの業者や組織との関係が崩れたり、傷ついたりします。組織の資金調達能力も低下します<sup>31</sup>。

ボランティアが自らの任務が上手くいって満足を感じ、危機を減らすために、派遣団体の一員としての振る舞い方に関して、基本的なガイダンスを受ける必要があります。以下はオリエンテーションでボランティアに与えられる「すること、しないこと」集です。

### ボランティア任務に対する危険を減らすためにすること、しないこと

危険を減らすため、介護支援ボランティアは次の道徳的ガイドライン(一部は法律でも定められています)に従わなければなりません。

派遣団体が提供するオリエンテーションや生涯教育的訓練、ワークショップに参加する。

オリエンテーションや生涯教育的訓練で得た演習、ガイドライン、明言に従うことによって、責任をもってボランティアの任務にあたる。

引き受けた任務のみを遂行する。

サービスを提供するときは、慎重になり、良識をもって正しい判断を行う。

派遣団体のプログラムの保証内容を理解しておく。任務期間中の自動車保険の保証内容を保険会社に問い合わせしておく。送迎サービスを行っているのなら、それにあった保証内容でなければなりません。

次ページへつづく

<sup>31</sup> *Volunteer and the Law, A Guidebook* by Robert W. McMenamin, J.D., edited by JoAnne L. Lippert, Jomac Publishing, Inc., Beaverton, OH, pp.49-50. で共有されている資料より許可を得て改編)より許可を得て改編。

## ボランティア任務に対する危険を減らすためにすること、しないこと つづき

要介護者や介護者、その家族のほか、必要であれば、現場の医療提供者や社会サービス提供者と、仕事仲間としてよい人間関係を築き上げ、忌憚のない意思の疎通を保つ。

派遣会社の仲介者から要請があれば、完了した仕事、継続中のサービス、所要時間、仕事中の走行距離を正確に記録して報告書を提出すること。

緊急事態に備えて、あらかじめとるべき処置を知っておく。介護者や家族、しかるべき医療提供者、派遣会社の仲介者に、緊急事態に対処できるようになるには何をすればいいのかわかるとおく。

秘密を厳守し、信頼を保つ。緊急時や危険に直面していないかぎり、介護者と要介護者の個人的な問題や情報は秘密にしておくこと。緊急時や危険に直面したら、派遣会社の仲介者知らせなければならない。

秘密は慎重かつ正直に受け入れる。秘密の情報を聞く前に、その内容に何らかの危険や、その可能性のあるものがあるなら、派遣会社の仲介者に話さなければならないということを要介護者や介護者に話す。

介護者や要介護者、その家族の精神世界や宗教上の習慣を尊重する。宗教や自らの宗教上の好みについては話さず、思いやりと寛容を実践する。

心を広く持つ。他人を受け入れる。

自らの動作や話し方、心を意識する。まずは考える。

どんな問題でもすぐに派遣会社の仲介者に知らせる。

虐待が疑われるなら知らせる。身体的、情緒的、性的、金銭的虐待が疑われたら、すぐに派遣会社の仲介者に知らせなければならない。

特別に訓練されていたり、そうしたサービスを行う権限が与えられていない限り、要介護者の入浴、トイレ、マッサージなど「肌に触れる」身辺介助サービスを行わない。

サービスの方法がわからないときや、そのサービスによって要介護者や介護者、あなたが危険にさらされると思われるときは、サービスを行おうとしない。

任務の一部として処方薬や一般市販薬を手渡したり、医学的なアドバイスを与えてはいけない。

要介護者や介護者など、一緒に住んでいる家族を接触伝染病にさらしてはいけない。自らが風邪やインフルエンザにかかったり、熱があったり、接触伝染病（水疱瘡や結核など）を移されたら、すぐに派遣会社の仲介者に知らせ、よくなるまで代わりに仕事をしてくれる人を手配してもらおう。

前もって決められていない限り、病院に連れていくことを申し出ない。救急の場合は、119番や要介護者や介護者の近親か友人に電話する。

家族の問題に口出ししない。要介護者の福祉サービスに関してはすべて、介護者や要介護者、家族、医療提供者や社会福祉の専門家が決める。

要介護者や介護者の代理でも、一緒にいたとしても、小切手を現金に換えたり、法律上の書類に署名したりしない。

お金や高価な贈り物を受け取らない。家族や地域の人に誤解される可能性がある。本人や家族が援助と感謝を示すことを望んだ場合は、派遣会社に寄付するよう提案する。

*Volunteer Management Guide*, National Federation of Interfaith Volunteer Caregivers, Inc., 1997, Attachments C7, p.1.(Maui IVC, Maui, HI で共有されている資料より許可を得て改編)より許可を得て改編。